



TITLE:

表紙・目次・編集後記ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・目次・編集後記ほか. 宗教学研究紀要 2018, 15

ISSUE DATE:

2018-12-13

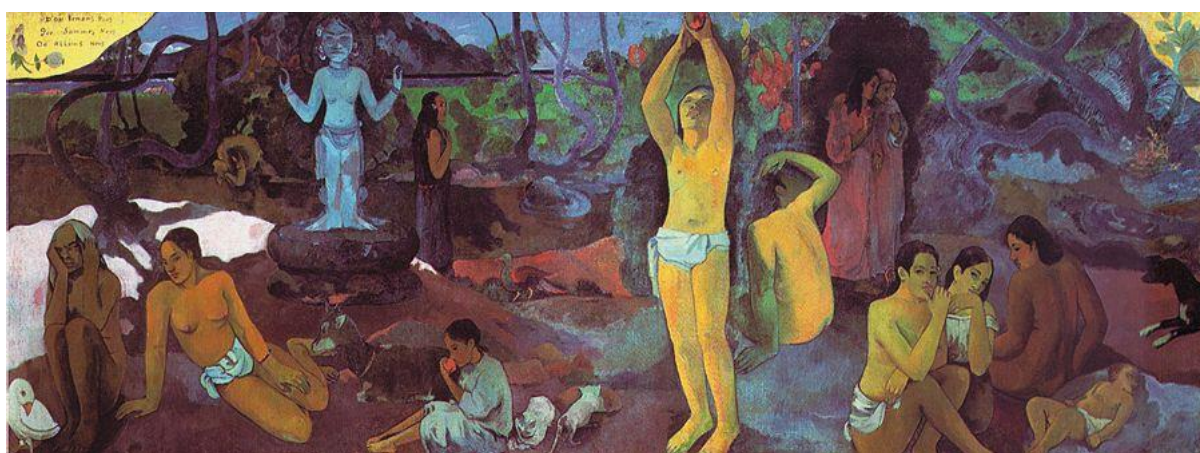
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/235715>

RIGHT:

# 宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2018 vol.15

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top\\_page/](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top_page/)

<公募論文>

ショーペンハウアーの苦悩の共同

— カントとシュヴァイツァーを参照して

鳥越覚生 (3)

初期シモーヌ・ヴェイユにおける労働概念の形成

小林敬 (23)

田辺元の宗教哲学における実存共同について

— 「種の論理」から「愛の論理へ」

浦井聡 (48)

編集後記

(76)

——宗教学研究室紀要編集委員——

杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	教授
後藤正英	佐賀大学教育学部	准教授
川口茂雄	甲南大学文学部	准教授
伊原木大祐	北九州市立大学基盤教育センター	教授

——第 15 号執筆者紹介——

鳥越覚生	一般財団法人懺悔奉仕光泉林事務局	事務局員
小林敬	京都大学文学部	非常勤講師
浦井聡	京都大学大学院文学研究科	博士課程

\*\*\*\*編集後記\*\*\*\*

本年度の研究室紀要では、計三本の論考を掲載することができました。A・ショーペンハウアー、S・ヴェイユ、田辺元と論題は多様ですが、各思想家の思考の根本動機へと野心的に迫ろうとするその研究意図の果敢さにおいて、各論考は共通していると言っても許されると思います。編集に携わった者として、今号の論考もまた多くの人の思考の作業場に首尾よく紛れ込み、多種多様な関心と反響と共同を呼び起こしてゆく起点となることを願って止みません。

各論文の査読にご協力いただきました先生方には、この場を借りて心より御礼申し上げます。また、編集作業にご協力くださった先輩方や友人にも感謝致します。編集作業の難しさは昨年度と同様でしたが、研究論文の形式の面白さを普段とは異なる仕方で体感する得難い機会であった点でも、やはり変わりはありませんでした。この度の紀要編集の経験を、今後の研究活動の動機源泉として活かしてゆく所存です。

(樽田勇樹・伊藤孟記)

宗教学研究室紀要 第 15 号 (京都大学 文学研究科 宗教学専修 編)

2018年12月13日発行

Articles

Schopenhauers Gemeinschaft im Leiden. Vergleichen mit Kant und Schweizer

Kakusei TORIGOE 3

La formation de la notion de « travail » chez Simone Weil dans ses premiers écrits

Kei KOBAYASHI 23

The Existential Communion in Tanabe Hajime's Philosophy of Religion: From Logic of Species to Logic of Love

Satoshi URAI 48